

電気のふるさと

電源地域ニュース

C O N T E N T S



長野県 上田市丸子地域「鹿教湯温泉五台橋」

● Key Person..... 2

愛媛県 伊方町 町長
山下 和彦

● 特集 電源地域のサクセスストーリー..... 4

平成16年度 (財)電源地域振興センター マーケティング調査事業活用事例
行政が住民グループの自立をバックアップ
女性の視点と行動力で地域の幸せづくり
長野県 上田市丸子地域

● 電源地域の政策トピックス..... 10

平成19年度 電源立地対策に係る政府予算案の概要
経済産業省

● センター掲示板..... 12

- 「電気のふるさと 新じまん市」を幕張メッセで開催します!..... 12
- 平成18年度 電源立地促進功労者表彰が行われました..... 13
- 電源地域への企業誘致・立地促進を支援します..... 13
- 電気のふるさと 産品自慢..... 14
- 石炭?ほろ苦さ漂う黒いダイヤ 島根県 浜田市
話題になってます!「萩たまげなす」と「はなっこりー」 山口県 萩市
- Vol.6読者の声から..... 15
- 人事往来..... 15
- 読者プレゼント..... 15
- 編集後記..... 15

電源地域探訪 ~表紙のことは~

四国最西端の町、伊方町は長さ50kmという日本一細長い「佐田岬半島」に位置します。ドライバーに人気がある国道197号(通称:メロディーライン)は、美しいリアス式海岸と紺碧の海、澄みわたる空をどこまでも堪能することができます。

「岬アジ、岬サバ」をはじめとする魚介類、また、温暖なこの地域の段々畑で栽培される柑橘類は、地元関係者の懸命な販路拡大活動によって、全国にファンを作り続けています。

間もなく合併2周年を迎える伊方町では、豊かな地域資源をもう一度見つめなおし、多くの方に訪れてもらえる活気あるまちづくりを進めています。

表紙:伊方発電所(四国電力) 総出力:202.2万kW

営業運転開始:昭和52年9月(1号機)、昭和57年3月(2号機)、平成6年12月(3号機)

Key Person



愛媛県 伊方町 町長
山下 和彦

おらんとこにはな、富士山より高い山があるがよ。十三里もあつてな風でこけたらいけんけん、横に寝かせてあるがよ……。愛媛県の西南部には、このようなおもしろおかしい昔話(トッポ話)が沢山あります。この横に寝かせてある山は、佐田岬半島と呼ばれ、四国の西端から九州に向かって象の鼻のように突き出しています。半島の先端部から三崎町、瀬戸町、伊方町という三つの町があり、平成十七年四月一日に合併し、新「伊方町」が誕生しました。合併しても、一万三千人足らずの小さな町ですが、豊かな自然の中で、町民一人ひとりが心豊かに暮らすことのできる「よるこびの風薫るまち」を目指しています。

私たちの町は、四国と九州を結ぶ西の玄関口という要衝にあり、大分県とは海を隔てて、わずかに十数キロメートルの距離にあります。潮流渦巻く、この豊予海峡を橋かトンネルで結び、紀淡海峡から伊勢湾に通ずる第二国土軸構想という壮大なロマンもあります。古くはイワシやサバなどの沿岸漁業で栄え、大正から昭和にかけては良質の銅鉱石を産出。畜牛や養蚕の産地としても名を馳せ、戦後は柑橘栽培が急速に進み、今では耕地の九十パーセント以上が柑橘園となっています。温州みかんに始まり、伊予柑やデコポン、清美タンゴールなどの晩柑類に移り、温室みかんへと続く周年栽培で、産地間競争に活路を見出し出そうとしています。

また、リアス式の沿岸海域では伊勢エビ、アワビ、サザエ、ウニなどが豊富で、こだわり漁師の一本づりではアジ、サバ、タイ、ハマチの大半を鮮魚として集出荷。中でも「岬アジ、岬サバ」は高級ブランドとして定着し、近年、チリメン漁やアワビ養殖も盛んになっています。ほかにも、古い歴史と伝統を誇る伊方杜氏の地酒もあります。こうした多種多様な産業、豊かな自然、伝統文化、地域の人々といった財産等々、町のあらゆる宝を融合させた「触れ合い、楽しみ、体験する」ツーリズムを振興させることで、町の活性化につなげたいと思っています。伊方町のもう一つの顔は、四国で唯一の原子力発電所があることです。昭和四十四年に町が誘致に乗り出し、昭和五十二年に一号機、昭和五十七年に二号機、平成六年に三号機が営業運転を開始。今では、四国の電気の約四割をまかなう重要な役割を果たしています。また、昨年十月にはプルサーマル計画の受け入れを表明。国策に協力することを基本に、安全安心を前提に、国の制度を有効活用し、これからの新しい町づくりを進めて参ります。町の舵取り役として、やっと二年が経過しようとしています。私の信条であります開かれた行政運営による新町の一体感の醸成を、最重要課題とし、伊方町に生まれ、暮らしてよかったと実感できる町づくりの実現に努めます。今年度は、町の南北を縦断する町道の開通、温泉温浴施設の整備にも着手しました。今後は、防災通信施設の二層の充実、集落間を結ぶ町道の改修、福祉対策等々、一歩一歩着実に推進して参ります。電源地域の皆さんの町づくりに学び、活気あるふる里づくりに、職員と共に汗して参りたいと思っています。